

TEISO TOYOKA NEWS

2017年3月号 VOL.97

 企画・発行：(株)テイソトヨカ 四日市技術研究所
 掲載している記事の無断使用を禁じます。

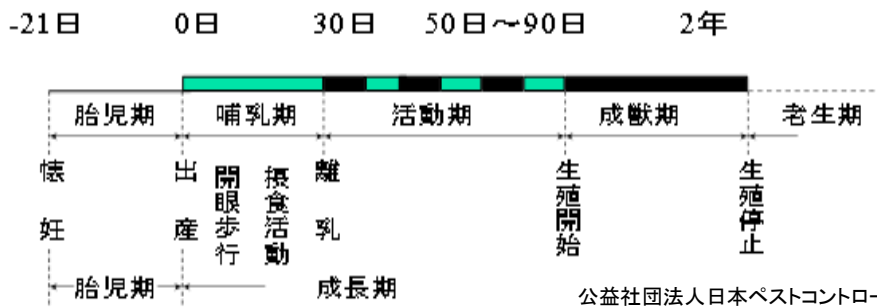
 〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

ネズミのお話

3月5日は24節季のひとつ「啓蟄(けいちつ)」です。「啓」には「ひらく、開放する、(夜が)明ける」などの意味があり、「蟄」には「冬ごもりのために虫が土の下に隠れる、とじこもる」(日本大百科全書ニッポニカより引用)という意味があるとのこと。暖くなるこの時期を境に生物が活発に動き出し、私たちの仕事も忙しくなる時期となります。

さて、いろいろな生物を相手に仕事をしていると、対象生物の予期しない行動に出くわすことがあります。その中でも知能が高く学習能力があるネズミに関心をもつことがよくあります。今回は、ネズミの生態と防除から知り得た知見をお知らせします。

日常的に私たちが通常防除対象とする「ネズミ」は、人の生活圏に入り込んでくる「家鼠(かそ・いえねずみ)」と呼ばれているドブネズミ・クマネズミ・ハツカネズミの3種類です。同じ科ですが、少しずつ生態は違います。しかし、どの種も共通してネズミ算と云われるが如く、すごいスピードで増えます。一度に生まれる数と出産回数を考慮して、全部育つと仮定し単純計算するとワンペアのネズミが1年間で数千頭になるそうです。体も大きくなく、毒も持たないネズミの最大の武器は、用心深さとこの繁殖力です。



さて、家鼠の中でも、PCOの対象となるのは、ほとんどクマネズミです。もともと樹木生活をしていたので、運動能力が高く、配管や電線を伝って、わずかな隙間から施設に入り込みます。ヘビや猛禽類等の天敵がない都市化された住環境では、餌は生ゴミを含め無尽蔵にあり、年中暖かく、生息するには何不自由ありません。その結果、住宅もビルも飲食店も、地下街も、ネズミの温床になってしまいます。そんなネズミをセンサー付きのカメラで、その行動を追っていたときのことです。捕獲のための粘着シートを床面に並べたのですが、そこに映っていた驚きのシーンベスト5を紹介します。

1. 捕獲シートを設置した日は、何もしない日に比べ極端に活動量が少ない
2. 敷き詰めたシートの粘着剤が付いていない縁を通る
3. 配置したシートを啜り、通路を確保する
4. 床面に降りないで配管や什器の上など、捕獲されないよう通路を考慮して行動する
5. 殺鼠剤をまぶした餌を避け、無毒餌だけ食べる

日常的にこんなことをする生物ですから都市部のクマネズミは難防除になりがちです。さらに、永年 PCO が管理している物件では、毒成分に抵抗性を獲得した個体が出現し、防除を難しくしています。

唐揚げを前足で持って後ろ足だけで走る姿も映っていて、これには笑いましたが、都会のクマネズミと私たちとの知恵比べはこれからも続きます。(M.K)

 **今月のオススメ** コバエ用ムース FT:ムース状の泡と付属のチューブで奥まで貼り付き殺虫します。



コバエ用ムース FT はチョウバエやユスリカが湧くバスタブの裏や配管の中など、薬剤の噴霧が難しく、薬剤がすぐに落ちてしまうような場所にムース状の薬剤がべったり貼り付いて IGR による成長抑制効果によって幼虫から成虫までしっかりと殺虫します。

巾の狭いクラックや奥まった場所に対しては付属のチューブとノズルで対応するほか、床面などの広い場所への散布には施工用ノズルで対応することが出来ます。(※施工用ノズルは別売りです)。これから暖くなる中、水回りなどの奥まった場所の施工にいかがでしょうか。

自然の復元力 Vol. 76

先月号で昆虫の食性について、餌として利用する植物の多様性の差異から、単食性(単一な植物しか食べないもの)、狭食性(ある程度決まったグループに属する数種を食べるもの)、広食性(異なる科を含め多くの植物を食べるものや動物質も植物質もたべるもの)と区別されていることを述べました。"Fabreの昆虫の世界"では、植物を食べるチョウ目の幼虫の食性の例を以下のように具体的に紹介しています。

単食性: ○ウスバキチョウ ⇔ コマクサ(ケシ科)

○ツマグロキチョウ ⇔ カワラケツメイ(マメ科)

○ヤマキチョウ ⇔ クロツバラ(クロウメモドキ科)

○オオゴマダラ ⇔ ホウライカガミ(キョウチクトウ科)

狭食性: ○ジャコウアゲハ ⇔ ウマノスズクサ・オオバウメノスズクサ等(ウマノスズクサ科)

○アゲハ ⇔ サンショウ・ハマセンダン・栽培ミカン等(ミカン科)

○ルリタテハ ⇔ サルトリイバラ・ホトギス等(ユリ科)

○ゴマダラチョウ ⇔ エノキ・エゾエノキ(ニレ科)

広食性: ○イラガ ⇔ クリ(ブナ科)・カキ(カキノキ科)・サクラ類・ウメ(バラ科)等樹木の葉

○カブラヤガ ⇔ マメ科、イネ科、アブラナ科、サトイモ科等、栽培植物はなんでも食べる。

○アメリカヒロシトリ ⇔ マメ科、イネ科、アブラナ科、サトイモ科等、100種以上を食べる。



(狭食性: ルリタテハ幼虫)

これにより、モンシロチョウの幼虫は単食性でアブラナ科植物しか食べないことや、アブラナ科の植物がない環境ではこのチョウ種の維持はできないことなどが分かります。

植物を食べる昆虫は食植生昆虫と呼ばれます。チョウの幼虫は植物の葉や花を食べ、成虫は花の蜜を吸います。クワガタムシの幼虫は腐朽木を食べ、成虫は樹液を舐めています。

「アリ植物」という言葉があります。アリを住まわせてアリと共生している植物をまとめた呼称です。アリ植物は植物体をアリの巣として提供するとともに、花外蜜腺(花以外に蜜を分泌する蜜腺)と脂肪体をアリに与えています。その見返りに共生しているアリは、枝や葉上を徘徊し、葉を食べにきた様々な昆虫を捕えて撃退しています。

また、菌食性昆虫もいます。この昆虫は菌類(キノコやカビ)を餌としている昆虫類です。ヒラタカメムシ類は細い口吻を菌糸やキノコにつかたて吸汁します。キノコバエ類、ガガンボ類や甲虫の多くは菌食性です。また、なかには食料となる菌を育てて食べる昆虫も存在します。中南米に生息するハキリアリが有名です。日本でもタイワンシロアリがオオシロアリタケを栽培して食糧としているものや、キクイムシ科の一部でも幼虫の餌にアンブロシア菌という菌を育てて、与えているそうです。菌食性昆虫は種によって菌種が異なります。菌種は植林～雑木林～自然林に移行するに従い種数の増加がみられます。そして菌食性昆虫の種数が菌種の増加に比例して増加することが分かっています。

食料に糞を利用している昆虫もいます。これを糞食性昆虫といわれています。糞ころがしは有名ですね。(Sin)

* 参考図書: 徹底図解 昆虫の世界: 監修者 岡島秀治、(株)新星出版社(2009)社



今月のオススメ SUTRONTEC: コンパクトで設置場所を選ばない室内用の飛翔昆虫防除器です



(交換用カートリッジ)

微粒子状の薬剤噴霧で室内の飛翔昆虫の防除を自動で行なう防除機器です。ピレスロイド系の薬剤によって飛翔昆虫に対して即効性がありつつも薬剤の残留は少なく、煙も出ないのでオフィスや飲食店の客席にも安心してご使用いただけます。単三乾電池 2本の電池駆動で最長 3ヶ月使用でき、高さ 23.5cm × 奥行 4.5cm × 幅 6cm とテレビのリモコンサイズの本体は電池と薬剤を含めても 230g と軽く、両面テープでも壁面に十分に設置が可能です



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析

有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市千代田区千代通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小籠町島 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430